

田富小だより

令和5年度
第7号
11月 1日
田富小学校



音楽が創り上げるもの

令和5年10月31日、実に4年ぶりに“音楽集会”を開催いたしました。はじめは、10月18日を予定していたのですが、インフルエンザの感染拡大により約2週間後に延期にしました。インフルエンザもかなりのスピードで拡大し、1学年、2学級の閉鎖措置をとりながら、10月最終週、ようやく落ち着いてきたので、たいへんよかったと思っています。子ども達は、9月から、少しずつ練習に取り組んできたので、延期措置はとったものの、新たな練習時間を割くことはさほどありませんでした。

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し始めてから、音楽活動と調理実習等の食に関する活動は

慎重な実施を余儀なくされました。ですから、学校全体で合唱をしたり、となりの子と肩を並べて大きな声で歌ったりなど、ほとんど実施されることはありませんでした。

今年の5月から、ようやく本格的に諸々の音楽活動が実施されるようになると、学校に子ども達の歌声が戻ってきました。低学年児童の元気いっぱいの歌声、中学年児童の一部ハーモニーが響くようなちょっぴり大人っぽい歌声、高学年児童の実にしっとりとした美しい2部合唱。是非、保護者の皆様や地域の皆様にも聞いていただきたい…そんな思いでいっぱいになりました。子ども達の創り出す音楽は、私達大人の心を揺さぶります、心に問いかけます、心に響き渡ります。それは、子ども達が「ひとつのもの」を創り出そうとするエネルギーに溢れているからです。そして、その溢れるエネルギーでひとつのものを創造していく過程で、子ども達は協力し合い、学びあうのです。これは、この3年間、本当に実ることがなかったものだと思います。

さあ、ここから先は、写真を載せながらの紙上発表会としたいと思います。合唱・合奏をご覧になることができなかった方も、その様子を思い描いていただければと思います。

①1年生「世界中のこどもたちが」(合唱) 世界各国の国旗とあいさつからはじまった1年生のパフォーマンス。とてもかわいらしく、国際的で、多文化共生を推進める田富小学校ならではの1曲となりました。元気いっぱいの歌声でした。



②3年生「とどけよう このゆめを」(合唱)・「新時代」(合奏)

続いて3年生の合奏と合唱。合奏は、実にたくさんの楽器を使い、本格的な仕上がりに。はじめて合奏を聞いた1年生もびっくりのクオリティでした。「とどけよう このゆめを」も子どもらしい伸び伸びとした素晴らしい歌声でした。



③5年生「マイバード」(2部合唱)

1部最後は、5年生による2部合唱でした。素晴らしい伴奏にのせ、美しい歌声が響きました。5年生によって、会場の方々へ「愛のメッセージ」がしっかり届いたと思います。たいへん素晴らしかったです。



④2年生「青い空に絵をかこう」(合唱)

2年生の発表は、まるでミュージカルのようでした。大きな船に、バンダナ、星やポンポンなどストーリー性のある演出の中で、元気いっぱいの歌声が響きました。耳にも目にも残る素晴らしい発表になったと思います。



⑤4年生「オーラリー」(合奏) 「ふるさと」(2部合唱)

4年生はリコーダー演奏と合唱の2曲でしたが、演奏も歌声もたいへんきれいな印象が強かったです。嵐の歌でよくご存じの「ふるさと」もとてもしっとりとしており、男子のソプラノもきれいに、ハーモニーが体育館一杯に広がりました。とても感慨深いものでした。



⑥6年生「ゆかいな合奏」(合奏) 「命の歌」(2部合唱)

「ゆかいな合奏」はふだんの6年生を観ているような楽しいパフォーマンスでした。「命の歌」はうって変わって、進学を前にした心境をしっとりと歌い上げていました。聞き終わった保護者の中には、目頭にハンカチをあてている人も…最高学年にふさわしい素晴らしい発表でした。



全校合唱は、「気球にのってどこまでも」。秋の青空を見上げていると、この歌の歌詞のように、どこかへ行ってみたいなと思いたくなります。こんないい季節に、こんな楽しい文化行事を保護者の皆様に観ていただくことができ、たいへんうれしく思います。しばらく、こういった行事から遠ざかっていた我々教職員は、「やっぱり、こういった文化芸術的な行事も必要だね」と口々に言っていました。それは、歌や演奏が届ける音楽のよさもさることながら、そこに至るまでの学習活動が如何に意義あるものなのか、そして、それを作り上げていった子ども達同士の助け合う姿こそこの行事をすることの本当の意義なのだと感じた半日でした。お忙しい中、参観に駆け付けていただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。